

## 水生動物（魚類・両生類・爬虫類を除く）

水生動物の調査は、主にタモ網を使って水中の昆虫類、貝類、エビ類などの小動物をすくい採る方法で行いました。ここでは、魚類、両生類、爬虫類などの脊椎動物を除いた動物について紹介します。昆虫類では、トンボ、カゲロウ、ゲンジボタルなど幼虫期のみ水中で暮らす種類も多いです。

調査を行った場所は、河川3水系において5地点、ため池が5地点、水路が4地点、水田が4地点、琵琶湖が1地点、その他1地点の計20地点でした。その結果、昆虫類105種、甲殻類7種、貝類13種、その他4種の計129種の水生動物が確認されました。環境省第4次レッドリスト、または滋賀県レッドデータブック2010年版に掲載されている絶滅が危惧される種は、昆虫類6種、甲殻類1種、貝類2種の計9種でした。一方、外来種は甲殻類1種、貝類3種の計4種でした。

1978年の調査では、河川のみを対象としていたため、種数が53種と半分以下でしたが、今回の調査では特に水田とその周辺の水域でゲンゴロウ類や水生カメムシ類などの種類を新たに確認することができました。



タモ網を使った調査の様子（平井規央）



水田の近くで採集された水生動物。ゲンゴロウ類、コオイムシ、タイコウチ、ドジョウなど（平井規央）

### 草津市で確認された水生動物のグループごとの種類数

グループ		調査年	
綱	目	1978年	2013年
昆虫綱	トンボ目	6	25
	カゲロウ目	3	18
	トビケラ目	2	15
	カワゲラ目		6
	ヘビトンボ目		2
	コウチュウ目	8	21
	カメムシ目	3	12
	ハエ目	17	6
	チョウ目	1	
軟甲綱	エビ目	2	5
	ヨコエビ目		1
	ワラジムシ目	3	1
二枚貝綱	マルスダレガイ目	1	2
	イシガイ目	2	4
腹足綱	盤足目（カワニナの仲間）	1	2
	モノアラガイ目	2	3
	原始紐舌目（タニシの仲間）	1	2
渦虫綱	ウズムシ目		1
ヒル綱	ヒル目	1	3
合計		53種	129種

## 身近な水生動物

河川のように流れのある場所（流水）と、ため池や水田などのように流れの少ない場所（止水）では、生息している生き物の種類が異なります。流水にはカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類などが、止水には水生コウチュウ類、水生カメムシ類などが多い傾向があります。トンボ類やユスリカ類などはどちらにも見られますが、種類はそれぞれで異なります。草津市では奥池周辺で多様な流水性昆虫が見られたほか、水田周辺の水域ではゲンゴロウ類などの止水性昆虫が多く確認されました。



多種の流水性の動物が確認された奥池上流の水路（平井規央）

## 流水性の水生動物

流水性の昆虫では、ヒゲナガカワトビケラ、ゲンジボタル、サナエトンボ類、シマアメンボなどの昆虫類とサワガニ、カワニナなどが複数の地点で確認されました。特にハグロトンボの幼虫は6地点と最も多くの場所で見られました。



ゲンジボタル幼虫が多く見られた伊佐々川の中流部（平井規央）

カワゲラの仲間 幼虫	ヒラタカゲロウの仲間 幼虫	マダラカゲロウの仲間 幼虫	コカゲロウの仲間 幼虫	ヒゲナガカワトビケラ 幼虫
↓		↓		↓
カワゲラの仲間 成虫		カゲロウの仲間 成虫		ヒゲナガカワトビケラ 成虫
コオニヤンマ幼虫	ハグロトンボ幼虫	ヤマサナエ幼虫	ゲンジボタル幼虫	サワガニ
↓	↓	↓	↓	
コオニヤンマ成虫	ハグロトンボ成虫	ヤマサナエ成虫	ゲンジボタル成虫	カワニナの仲間

(平井規央)

## 止水性の水生動物

止水性の昆虫では、ゲンゴロウ類、ガムシ類などのコウチュウ類や、ミズカマキリ、タイコウチ、アメンボ類などの水生カメムシ類、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、アオモンイトトンボなどのトンボ類、ヌマガイ、イシガイなどの二枚貝などが確認されました。



止水性の水生動物がよく見られる水田脇のたまりや水路 (平井規央)



(平井規央)

## 水生動物の希少種

今回の調査で確認された環境省第4次レッドリストまたは滋賀県レッドデータブック2010年版の記載種は、キイロサナエ (環境省準絶滅危惧)、シマゲンゴロウ (環境省準絶滅危惧)、クロゲンゴロウ (環境省準絶滅危惧・滋賀県希少種)、コガムシ (環境省情報不足)、スジヒラタガムシ (環境省準絶滅危惧)、コオイムシ (環境省準絶滅危惧)、サワガニ (滋賀県要注目種)、タテボシガイ (滋賀県分布上重要種)、オオタニシ (環境省準絶滅危惧・滋賀県要注目種) の9種でした。



(平井規央)

## 水生動物の外来種

今回の調査で確認された外来種は、アメリカザリガニ (環境省要注意外来生物)、タイワンシジミ、カネツケシジミ (これら2種はタイワンシジミ種群として環境省要注意外来生物)、サカマキガイの4種でした。また、現在滋賀県で見られるカワリヌマエビ属の一種は、在来のミナミヌマエビではなく、近縁の外来種の可能性が高いと言われています。調査では、魚類の外来種であるオオクチバス、ブルーギル (ともに環境省特定外来生物) も多く確認されました。



(平井規央)